

# ネイチャーポジティブ ソリューション

金沢の気候変動対策と持続可能な都市自然モデル

参加無料 2023年3月5日(日)

13:30 - 16:00 金沢市文化ホール

## 気候変動と生物多様性に関するグローバル、 ローカルな解決策を考えませんか？

環境学、サステナビリティ学の第一人者である地球環境戦略研究機関 (IGES) の武内和彦理事長、都市景観の専門家であるストックホルム・レジリエンスセンターのトーマス・エルムクヴィスト博士、さらにMock COP26のグローバルコーディネーターでSWITCH代表の佐座マナ氏らが登壇予定。

本シンポジウムでは、2022年の国連気候変動枠組条約第27回締約国会議 (UNFCCC COP27)、そして生物多様性条約 (CBD) 第15回締約国会議 (COP15) にて進められた議論の成果、これからの国内外の具体的な対応について共有し、グローバルな視点とローカルな視点を結びつけて、環境問題に対するNature Positive Solutions ネイチャー・ポジティブ・ソリューションについて議論します。さらに若者 (ユース) と大人が力を合わせ、同じ目標に向かってどのように協力できるかを考えていきます。

## ネイチャー・ポジティブとは？

生物多様性の損失を止め、流れを逆転させて回復の軌道に乗せること。自然を優先する施策、自然にプラスとなる取り組みを行い、「生物多様性を維持する」から「生物多様性を回復させる」ことを目標にした新しい取り組み。

## イベント詳細・お申し込み (参加無料)



日時 2023年3月5日(日)  
13:30 - 16:00  
場所 金沢市文化ホール  
〒920-0864  
石川県金沢市高岡町 15-1  
言語 日英 (同時通訳付き)  
主催 UNU-IAS OUIK  
後援 石川県、金沢市



2020 UN BIODIVERSITY CONFERENCE  
COP 15 - CP/MOP10-NP/MOP4  
Ecological Civilization-Building a Shared Future for All Life on Earth  
KUNMING - MONTREAL



COP27  
SHARM EL-SHEIKH  
EGYPT 2022



UNITED NATIONS  
UNIVERSITY  
UNU-IAS  
Institute for the Advanced Study  
of Sustainability

## 金沢というまち

石川県金沢市は、海に開かれ、山に囲まれ、川や湧水など水資源が豊富な恵まれた自然環境にあります。しかし、都市部のドーナツ化現象、環境悪化、人口減少などにより、現在、この社会生態学的システムのバランスが危うくなっています。都市の自然を保全・再生するためには、金沢市の行政と市民、企業、研究者、ユース等が協働して継続的に努力し、生物文化多様性を保全するための持続可能なモデルを確立することが重要です。現在、金沢市は気候変動対策としてゼロカーボンシティの提言を策定し、森林や都市緑地の活用による緩和を図っています。さらにこれらのアクションを通して、気候変動対策と生物文化多様性やSDGsとの相乗効果を生み出すことが期待されています。

### プログラム

- 13:30** **開会の挨拶** 渡辺綱男 UNU-IAS OUIK 所長
- 13:35** **金沢市よりご挨拶**
- 13:40** **基調講演1** 武内和彦氏 「グローバルアジェンダとローカルアクション（仮）」
- 14:00** **基調講演2** トーマス・エルムクヴィスト氏 「都市の生態系サービスに関する新しい傾向（仮）」
- 14:20 - 14:35** **休憩**
- 14:35 - 15:55** **パネリスト発表&ディスカッションセッション**
- 1 ヒマンガナ・グプタ氏 「ネクサス・アプローチ - 2つの画期的なCOPが切り開いた気候変動と生物多様性の相乗効果」
  - 2 フアン・パストール・イヴァールス氏 「持続可能な都市自然プロジェクトと都市自然の恩恵」
  - 3 円井基史氏 「都市の自然によるヒートアイランド現象の緩和」
  - 4 佐座マナ氏 「日本の若者が起こすサステナブルの波とは？」
- ディスカッションセッション** 「次世代に向けたネイチャー・ポジティブ・ソリューション ～同じ目標に向かってどう取り組むか？」 コーディネーター 渡辺綱男
- 15:55** **閉会挨拶** 中村浩二氏 金沢大名誉教授 (16:00終了)

### メインスピーカー



#### 武内和彦

公益財団法人地球環境戦略研究機関 (IGES) 理事長。東京大学未来ビジョン研究センター特任教授、国連大学サステイナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) 客員教授、中央環境審議会会長代理、自然環境部会長、農林水産省世界農業遺産等専門家会議委員長などを兼任。市村地球環境学術貢献賞、みどりの学術賞、日本造園学会上原敬二賞、和歌山県文化賞などを受賞。専門は自然環境学、地域生態学、サステイナビリティ学。



#### トーマス・エルムクヴィスト

ストックホルム大学ストックホルムレジリエンスセンターの自然資源管理学の教授。生態系サービス、土地利用変化、自然攪乱、社会制度の役割を含むレジリエンスの構成要素に焦点を当てた研究を行っている。都市景観における生態系サービスのガバナンスと管理に焦点を当てた学際的な研究テーマをコーディネートしており、世界中の複数の都市景観が関与している。ミレニアム生態系評価にも関わり、国連主導の世界プロジェクト「都市と生物多様性の展望」、未来地球プロジェクト「アーバンブラネット」を主導し、IPBESの地域・小地域評価に関するスコープ専門家グループの一員でもある。



#### 佐座マナ

1995年生まれ。カナダ UBC卒業。ユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドン大学院 サステナブル・ディベロプメントコース在学中。Mock COP グローバルコーディネーターとして、140カ国の環境専門の若者をまとめ、COP26と各国首相に本格的な18の政策提言を行い、世界的な注目を浴びる。COP26日本ユース代表。2021年「一般社団法人SWITCH」を設立。現在は2025年大阪・関西万博に向け、100万人のサステナブルアンバサダー育成プロジェクトを推進中。